



～自分のからだに興味を持ち、自分を大切にできる子に～

保育園では年齢や季節などに合わせた保健指導を行っています。保健指導を通して感じるのは、子どもたちは自分の身体に興味・関心を持っているということです。素直な気持ちで「なんで？」と聞いてくる子どもに大人はどれだけ正しく答えられるでしょうか。特に『性』に関することだと回答に困ったりしていませんか。困っていて当然、わからなくて当然なんです。私たち大人が教わっていないのですから。

性教育の分野は私たちが子どもの頃とは変化してきました。

性教育＝人権教育と考えられており、自分らしく生きることを学ぶ分野ともされています。

なぜ幼少期からこのような話が必要なのか、どんな風に変化し、子どもたちにどのように伝えればよいかを、専門の先生からお話を聞く機会を作りました。ぜひこの機会に、今の性教育について一緒に話を聞いてみませんか。ご家庭と保育園が同じ知識・考えのもとで子どもたちに接していくことがとても大切だと考えます。

おうちでできる性教育

～子どもたちに、からだの大切さをどう伝える？～（仮題）

日時 8月8日（土）9：30～

場所 あゆみ保育園ホール

講師 高橋幸子氏

埼玉医科大学病院 産婦人科 助教（思春期外来担当）



性教育
まずはここからはじめよう

① プライベートパーツ



保育園では3歳クラスを目安に、こちらの絵本を読んで自分のからだはとっても大事と伝え始めます。深い意味がわからなくても、「からだって大事なんだ」と知ることが大切です。理由を伝えるのは、なんで？どうして？と聞いてくるようになってきてから大丈夫です。『自分が大事、周りのおともだちも大事』小さいころから繰り返し伝えていくことで、当たり前ごととしてその考え方が根付きます。



② NO GO TELL



←保護者の方はこちらはいかがですか。

『そういうことだったのね！』ととてもわかりやすく、漫画になっているので気軽に読み進められます。今、私たちが子どものためにできることを一緒に考えていきましょう。

*パラパラっと本を見てみたい方、いつでも事務所にお声かけください！